

大根の話などしないで

私に大根の話などしないで。一日のうちに大根について思いめぐらすことなんて皆無です。大根の値段から東証の動きを察知しているなんて冗談もすっかり板についてきて。私は未だに乳臭さを前にして深呼吸ができないでいる。気づいていましたか。気づいていながら私の想像のおよばない大根の話を楽しそうに話してみせるのね。私はただ表情筋を鍛えるように筋繊維にわずかな電気信号を送るのです。守口、練馬、三浦、亀戸、桜島、聖護院、どれが好きなの。私は聖護院。蕪じゃないのよ。古利が浮かんでくるような響きでしょ。嗚呼、京都へ行きたい。あれ、与謝蕪村の蕪ってかぶじゃない。今まにかぶと意識したことなんて無かった。恐ろしいわ、私の感覚。当てになら

ないわ感覚って。感覚ってすぐひとくりにしちゃうところも、恐ろしいわ。着地点は必ずポジティブシンキング。悲観的思考のまま話を終わらせるのが気持ち悪くて仕方がない。転んでも何かつかんで起きあがる。子供の頃から意地みたいところで、ここが私の愛すべき部分。あなたにとっての大根みたいなどころかしらって、そんなに大根愛してるわけじゃないか。部屋の中に野菜が置かれるのは生活者のしるしなのですが、部屋には野菜もフアクシミリもカレンダーも置きたくないのです。変なニオイがするんです。すえたモノガナシイ日々の集積臭とでも言いましょうか。アアルトの椅子、本、スワロフスキーのサンキャッチャー。そのくらいで十分なのです。色や形が発する騒音は想像以上に激しいものですから。せめて私の愛するものの響きを感じていたいじゃありませんか。ニオイなのかしらね、私が嫌悪するものって。私もニオイを発していますから、断言はいたしません。無臭でい

ることって難しいのですかね。でも一度無臭人間になってみたい。警察犬も感知できない無臭な人間に。携帯電話だって工業油のニオイがするでしょうし、絹からは蚕のニオイとか。水はどうなの。わたしたちはほぼ水で出来てると聞けれど、それでは臭う水のかたまりがこの私。水にもいろいろございましょう。名前を変えて真水、温水、海水、聖水。派生してゆく思考のよう呼び名が変わってゆくのです。名前だけではありません。個体、液体、気体と変幻自在。何にでもなれるのに戻るところはまた同じ。羊水につかり生まれたわたしの体から蒸発している水分はやがて雨となりましょう。大地を潤し、命を育む。そして肥沃な土壌からあなたの足のような立派な大根が誕生するのですね。